

B年顕現後第2主日 ヨハネ1章43―51節

〔直訳〕

- 43 翌日 彼は望んだ 出て行くことを ガリラヤの中へ  
そして 彼は見つける フィリポを。  
そして 言う 彼に イエスは、  
「従いなさい 私に」。
- 44 だがあった フィリポは ベトサイダから、町の中から アンデレとペトロの  
45 見つける フィリポは ナタナエルを  
そして 言う 彼に、  
「ところの方を 書いた モーセが 律法の中で そして 預言者たちが  
私たちは見つけた、  
イエスを ヨセフの息子を ナザレからの方を」。
- 46 そして 言った 彼に ナタナエルは、  
「ナザレの中から できるか 何か 良いものが あることが」  
言う 彼に フィリポは、  
「来なさい そして 見なさい」。
- 47 見た イエスは ナタナエルが 来るのを 彼の方へ  
そして 言う 彼について、  
「見なさい 本物の イスラエル人が その者の中に 偽りは ない」。
- 48 言う 彼に ナタナエルは、  
「どこから 私を あなたは知っている」。  
答えた イエスは そして 言った 彼に、  
「あなたを フィリポが 呼ぶ前に  
いるのを いちじくの木の下に 私は見た あなたが」。
- 49 答えた 彼に ナタナエルは、  
「ラビ、あなたは ある 神の子で、 あなたは 王で ある イスラエルの」。
- 50 答えた イエスは そして 言った 彼に、  
「ので 私が言った あなたに 次のことを  
私は見た あなたを いちじくの木の下で、  
あなたは信じるのか  
より大きなことを これらよりも あなたは見るだろう」。
- 51 そして 彼は言う 彼に、  
「確かに 確かに 私は言う あなたがたに、  
あなたがたは見るだろう 天が 開くのを  
そして 神の天使たちが 上るのを そして 下るのを 人の子の上に」。

〔新共同訳〕

43 その翌日、イエスは、ガリラヤへ行くとしたときに、フィリポに出会って、「わたしに従いなさい」と言われた。44 フィリポは、アンデレとペトロの町、ベトサイダの出身であった。45 フィリポはナタナエルに出会って言った。「わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」46 するとナタナエルが、「ナザレから何か良いものが出るだろうか」と言ったので、フィリポは、「来て、見なさい」と言った。

47 イエスは、ナタナエルが御自分の方へ来るのを見て、彼のことをこう言われた。「見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りが無い。」48 ナタナエルが、「どうしてわたしを知っておられるのですか」と言うと、イエスは答えて、「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下の下にいるのを見た」と言われた。49 ナタナエルは答えた。「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」50 イエスは答えて言われた。「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる。」51 更に言われた。「はっきり言っておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見るようになる。」

①構成

① 第一段落（43―46節）

⑦ ヨハネ福音書の序文ではロゴス・キリスト論が展開される。第一部（19―25）はイエス・キリストがこの世で活動した様子を描くが、その冒頭では洗礼者ヨハネの証しが述べられている。1章29―51節では、各段落の冒頭に「翌日」という句が置かれ（29・35・43節）、三日間にわたるイエスと弟子との出会いが描かれる。最初にイエスの弟子となったアンデレともう一人は、洗礼者ヨハネの「見よ、神の小羊だ」という言葉に促されて、イエスに従う。その翌日、イエスはフィリポに出会う。

④ 43節二行目「彼（イエス）はフィリポを見つける」と、45節一行目の「フィリポはナタナエルを見つける」が対応している。イエスはフィリポを見つけて「私に従いなさい」と命じる。フィリポは「イエスに従った」とは記されていないが、フィリポがイエスに従ったことは、彼がナタナエルを見つけて「モーセと預言者たちが書いている方を、イエスを見つけた」と告げる、その行動に示されている。

⑤ フィリポは、聖書（律法と預言者）が証している方は「ナザレの出身、ヨセフの子イエス」であると語る。しかし、ナタナエルは「ナザレから何か良いものがあるだろうか」と疑問を投げかける。イエスと出会ったフィリポとは反対に、フィリポと出会ったナタナエルはフィリポに従うことをしない。

⑥ フィリポはナタナエルに「来なさいそして見なさい」と語る。43節から45節では「見つける」という動詞が3回現れるが、47節以降では46節のフィリポの言葉に用いられた「見る」が繰り返される。

② 第二段落（47―51節）

⑦ 47節一行目は「見た」で始まり、イエスがナタナエルを「見た」ことが強調されている。46節の最後では「見なさい」とフィリポがナタナエルに命じているが、ナタナエルが見るよりも前

にイエスが見る。

④イエスはナタナエルを「本物のイスラエル人」と呼ぶが、これに「イスラエルの王」というナタナエルの告白が対応している。ヨハネ1章に描かれるイエスと弟子の出会いの中で、最後に弟子となるナタナエルはここで「本物のイスラエル人」という言葉で理想化されている。

⑤イエスが自分を見たことを知ったナタナエルはイエスを「神の子、イスラエルの王」と告白するが、イエスはナタナエルにさらに偉大なことを「見るだろう」と予告する。50節では「あなたを見るだろう」とナタナエルに向けて語られているが、51節では「あなたがたは見るだろう」に変えられている。「これらよりも大きなこと」、すなわち「天が開き、神の天使たちが人の子の上に上り下りする」という出来事を「あなたがた」は見る。「あなたがた」はヨハネ福音書の読者を指しているだろう。読者はこれを見て、イエスが神のもとから来た「言」であり、独り子である神であると信じる者となる。

## ②見つけて、言う（43―46節）

①最初に、イエスはフィリポを「見つける」。「見つける」という動詞は「出会う」と訳すことができる。この語はフィリポがナタナエルに出会ったときにも用いられている。つまり、二つの出会いはいは、

イエスはフィリポを見つけて、言う

フィリポはナタナエルを見つけて、言う

と表現されている。フィリポはイエスに見出されて、「私に従いなさい」というイエスの呼びかけに従う。しかし、フィリポがイエスと同じ行動をとっても、ナタナエルはフィリポの言葉を信じようとしめない。

②フィリポは「モーセが律法の中で、そして預言者たちが書いたところの方を私たちは見つけた」と言うが、ここにも「見つける」が用いられている。「見つける」を意味する動詞ヘウリスコーは、偶然に見出すときにも、捜し求めて見出すときにも用いられる。フィリポたちは旧約聖書に約束されたメシアの到来を待ち望んでおり、その期待が「見つける」という言葉で表されている。③フィリポはメシアを「見つけた」と喜ぶが、ナタナエルは「ナザレから何か良いものがあるだろうか」と言って疑いを差し挟む。当時のユダヤでは、ガリラヤ地方は蔑視されていたから、ナタナエルもそのような見方をしていたのだろう。しかし、フィリポはさらに「来なさいそして見なさい」と言って、ナタナエルをイエスのもとへと導く。なぜなら、イエスに出会わないかぎり、イエスが誰なのかを知ることができないからである。

④ナザレは、ガリラヤ高地の南丘陵にある町で、エズレル平野をはさんでサマリア高地と対峙し、東にはタボル山、西にはカルメル山を見ることができる位置にある。この町でイエスは育ったが（マコ1:9）、この町の名は旧約聖書にも、紀元後1世紀のユダヤ人歴史家ヨセフスの著書にもまったく見られない。「ナザレから何か良いものが…」というナタナエルの言葉からもうかがえるように、目立たない町であったのだろう。福音書と使徒言行録にのみ現れる「ナザレの人」は、イエスやその弟子を指す用語として使われるが、軽蔑の意味をこめて使われることもあった。

⑤ガリラヤに対するナタナエルの言葉と同様の発言はヨハネ7章にも見られる。7章41節「メシアはガリラヤから出るだろうか」、42節「ガリラヤからは預言者の出ないことが分かる」。ナタナエルは「ナザレ」を蔑視しているが、43節一行目に「イエスはガリラヤへ出て行くことを望んだ」

とあるように、イエスにとってガリラヤは宣教活動の場であり、イエスは最初のしるしをガリラヤのカナで行う。ユダヤにはイエスは命を狙う者がいるが、ガリラヤはイエスにとって安心して巡ることのできる地である（七1）。

### ③私はあなたを見た（47―51節）

①「来なさいそして見なさい」とフィリポに言われたナタナエルだが、彼がイエスを見る前に、イエスがナタナエルを見ている。そして、イエスに出会ったナタナエルは、自分がいちじくの木の下にいるのをイエスが見ていたことを知らされ、「あなたは神の子である。あなたはイスラエルの王である」と告白する。「あなたは…あなたは」と主語を繰り返しているが、「あなたこそは神の子、あなたこそはイスラエルの王」というように、ナタナエルの高ぶる思いがこの告白に示されている。ナタナエルはこのとき、自分がイエスを見るよりも前に、イエスが自分を見ていた、という喜びに満たされていたのだろう。神の子はすでに自分たちのもとに来ている。しかし、それに気づくことのできない人々のために、イエスが先にその人を見つける。

②イエスはナタナエルのことを「本物のイスラエル人だ。この人には偽りは無い」と褒めている。「いちじくの木の下」とは、ラビが弟子たちを教える場所であったから、ナタナエルがそこにいたというのは、彼が熱心に律法を学んでいたことを示唆するという見方がある。ナタナエルは、一度はイエスを否定しようとした。彼がこれまで学んできた知識に頼るなら、イエスはメシアではないからである。しかし、その彼をイエスが信仰へと動かす。教会を迫害したパウロが、呼びかけるイエスの声に気づいて回心したように、自分が気づく前から見てくれたイエスに出会ったとき、ナタナエルは信仰へと導き入れられる。

③ナタナエルはさらに偉大なことを「見るだろう」と予告される。「神の天使たちが人の子の上を上り下りする」は、創世記28章12節のヤコブの夢の故事に基づいている。ナタナエルはイエスを「神の子、イスラエルの王」と告白したが、イエスはそれよりもさらに偉大な者である。「神の天使たちが人の子の上を上り下りする」とは、神とイエスとの交わりが特別なものであることを示している。イエスは神のもとにいた方、神のもとから来て、私たちの間に宿られた方、肉となった言である。イエスが神のふところにいる独り子であることを「見るだろう」という約束は、ナタナエルだけでなく、「あなたがた」、イエスと出会って、イエスを信じる者となるすべての人に向けられている。

### ④イエスが動いて告げる救い

①イエスはフィリポを見つけ、「従いなさい」と呼びかける。フィリポも同じように、ナタナエルを見つけて「メシアを見つけた」と告げる。しかし、ナタナエルはフィリポの言葉を信じようとしない。疑うナタナエルにフィリポは「来て、イエスを見る」ようにと語る。イエスと出会うことがなければ、人は信じる者となることはできないからである。友を信仰へと招くために人であることは、イエスと出会う場を作ることである。

②イエスは「さらに偉大なことを見るだろう」という約束を与える。イエスは「神の子、イスラエルの王」という称号では表しきれないメシアである。独り子である神、イエスが与える救いは人には測り知ることができない。だからこそ、人よりも前に、イエスが動いてその人を見つける」。告げられることがなければ、神の救いを知ることができないからである。救いは人が求めて見つける前に、神からすでに与えられて差し出されている。